

## 編集後記

### 編集長(ダン シロウ)

■編集作業をと目論んでいた日程に発熱、ダウン。沢山のスケジュールをキャンセル、再設定して四日間寝込んでいた。

この間にジワジワ仕上げるはずだった編集作業もストップ。三人で集まった12月3日の編集会議は、私的には今までで最もはかどっていない状態での集合だった。

せつせと遅れを回復しつつ、既定のスケジュールをこなしながら、今年最終の東日本大震災家族応援プロジェクトで福島に向かった。

■なのにその道中で、又やってしまった。USBトラブルである。PC本体にデータがあれば問題ないのだが、何度か古いデータに気づかず、同じ更新を繰り返してしまって腹が立ったので、最新のモノをUSBにまとめて持ち歩いて更新や編集をしていた。

それが「初期化されていません」と表示される。あらあら、慌ててノートPC本体のハードディスクを探してみるが、19号のモノはない。執筆者にメールで送ってもらったモノをUSBに落として、そこで編集作業をしてきたからだ。ノートPCのハードディスクにコピーをと思わなくはなかったが、まあ大丈夫と勝手に思いこんであえなく崩壊。一からやり直した。

更にどうやら自分の原稿も途中からやり直し。こんな事を繰り返してだんだん賢くなっていくのか、永遠に学ばないのか、微妙だ。

### 編集員(チバ アキオ)

★対人援学会研究会第13回(通算37回)が2014年10月17日(金)キャンパスプラザ京都 6F 第1会議室にてゲストスピーカ

ーに梶原成子さん(カウンセリングオフィス Sola 代表)をお迎えして「人の元気を引き出すソリューション・フォーカスト・アプローチ」をテーマに行われました。会場はいい。前半はソリューション・フォーカスト・アプローチの考え方をとてもわかりやすく伝えてくださいました。そして、後半は実際に参加者を同士でその手法を体験、実践いたしました。実際に、会場は終わった時にはみなさん笑顔になり、元気になって解散というテーマ通りの会でした。さすが梶原先生！次回は2月！ハミングバードの土屋明子先生です。夫婦カウンセリング等の実践からお話ししてくださいませ。お楽しみに！研究会も担当している千葉より。

★対人援助学会第6回年次大会「ボーダーを超えて、対人援助の可能性を広げる・深める」が2014年11月8日(土)～9日(日)立命館大学で行われました。「東日本・家族応援プロジェクト」に関する村本邦子先生のポスター発表、そしてこのプロジェクトに関する報告がされた理事会シンポジウム「レジリエンスとライフストーリーワークー物語ることの諸実践と対人援助」(企画コーディネーター中村正、村本邦子、國友万裕ほか)がとても印象に残っている。

起こっていることを矮小化する学問。ポストモダン、実証主義、量的・質的研究、当事者性…を超えた事象の捉え方を模索できていない怠慢がある！という批判を基礎に、試みとして「証人になる」というと捉え方を取り上げていた。そこには証人であることの責任も付随し、関係の結び直しでもあり、共有する様々なものを持ち、行動・言葉・感覚あらゆるものが伴う。つまり場所も空間も時間も、いろんなタイミングで作用する蓄積を重ねていく。そういった豊かさを示す使命あるのではないかという問いかけのように感じた。

マガジンで村本邦子先生が連載している「東日本・家族応援プロジェクト」に関して、何もわかっていなかったなあと思うとともに、その豊かさに愕然とした。

★私が20代の頃からお世話になっている大石仁美さんの連載を(勝手に)応援しながら読む自分がいました。藤信子先生の漢字クイ

ズ、京都クイズ、コミュニティとの関わり、坂口伊都先生の忍耐を覚悟した後の「忍耐」もとても心に留まった編集作業でした。そして高垣愉佳さんの連載からヒトコト、「Happy holiday!」

### 編集員 オオタニタカシ

よく「編集会議って何をしているの？」と聞かれます。「団先生がずっと好きなことしゃべってたりして…」と想像される方もいます。編集会議での話は、マガジンと直接関係あることもないことも含め、多岐に渡ります。マガジンについても、直近の号の編集の段取りなど具体的な作業の打ち合わせもありますが、もう少し大きく、今後の展開等にも話が及びます。

前回、18号の編集会議で、2本の連載を並行する「ダブル連載」の話が出ていました。その時は「そんな手もあるのか」と思ったくらいだったのですが、去る10月に台風で止まった新幹線で3時間缶詰めになり、あれこれと考えを巡らせる間に、今号からダブル連載を始めることに決めました。もともとは、今の連載が終わったら次はこのテーマに、と思っていました。しかし、「続けて書く」ことと「同時に書く」ことでは、異なった意味が生まれるように思い、やってみる価値があるのでは！と試みてみることにしました。こんな考えがすぐに実行に移せるのも、Webマガジンならではの、というところでしょうか。

### ■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は

[danufufu@osk.3web.ne.jp](mailto:danufufu@osk.3web.ne.jp)

### マガジン編集部

604-0933 京都市中京区山本町438

ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

## 対人援助学マガジン

### 通巻19号

第5巻 第三号

2014年12月15日発行

<http://humanservices.jp/>

第20号は2015年3月15日  
発刊の予定です。

原稿締切2015年2月25日！

新規連載者を募っています。  
編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。

### 対人援助学会事務局

〒603-5877 京都市北区等持院北町56-1  
立命館大学大学院応用人間科学研究科内

TEL:075-465-8375 FAX:075-465-8364

### 対人援助学会事務担当

### 入会・退会・変更届

〒540-0021 大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL/FAX 学会専用:06-6910-0103

## 表紙の言葉

ピンク系と黄緑系の混在。色神検査でずっと、「赤緑色弱」と言われてきた私には苦手な色の組み合わせだ。だからこの配色を選んだ。混ぜると危険！描き手と受け手で、見えているモノが異なっているのかも。この頃はもうやらないのかもしれないが、色神検査のまだら模様で、みんなが見えないモノが見えてしまう不思議さがちょっと得意で面白かった。

2014/12/11